

「住民基本台帳に基づく外国人数」

去る7月11日、総務省が住民基本台帳に基づく1月1日現在の外国人数を発表しました。それによると2018年は約250万人と過去最高になりました。

1. 在留管理制度について

2012年7月、日本に滞在する外国人を管理する制度としての「外国人登録制度」が廃止され、新たに「在留管理制度」がスタートしました。これに基づき、3カ月超の日本滞在となる外国人は原則として住民登録の対象となり、日本人と同様に住民票がつくられることになりました。これにより2013年以降、住民登録を行った外国人数等の把握が可能となったことから、総務省が毎年発表する統計に加えられました。

2. 年齢階層別の外国人数

総務省から発表された統計によると、2018年1月1日現在の在留外国人数は2,497,656人と、2013年（3月31日現在）の1,980,200人から517,456人増加しました（増加率26.1%）。この間、日本人の人口は1,184,076人減少していますので、日本人の人口減少分の半分近くを在留外国人の増加が補っているという見方もできます。

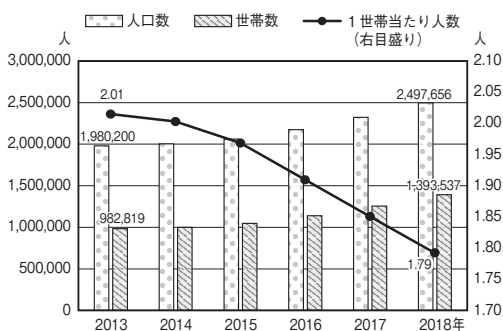
また、在留外国人の世帯数を見ると、2013年が982,819世帯で2018年が1,393,537世帯と410,718世帯増加した（増加率41.8%）一方、1世帯当たりの人数は2013年が2.01人、2018年が1.79人と、0.22人減少しています。単身者を中心に、少人数世帯の在留外国人が増加していることがわかります（図表1）。

3. 年齢階層別の人口構成

図表2は2018年における日本人と在留外国人の年齢階層別グラフ（人口ピラミッド）です。日本人は少子高齢化で若年層が少なく高齢層が多い「つぼ型」であるのは皆さんご存知のとおりです。一方、在留外国人は年少人口こそ少数ですが、20歳以上は見事な「富士山型」になっています。

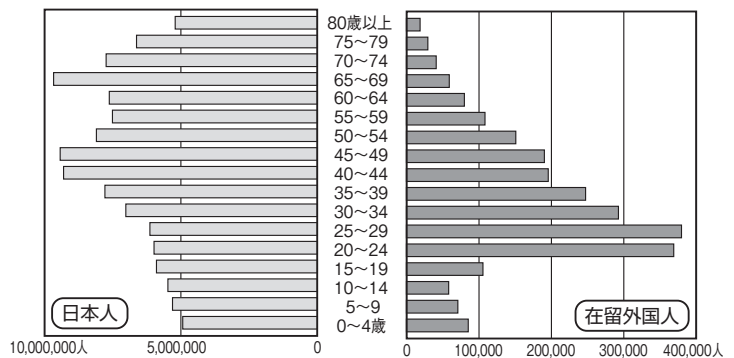
以上より、20～30代を中心に「生産年齢人口」といわれる層の外国人が「働き手」として単身で来日している、という構図が浮かび上がります（次回は「外国人労働者」について取り上げる予定です）。

図表1 住民台帳登録の在留外国人数・世帯数及び1世帯当たり人数の推移



※2013年のみ3月31日現在、他は1月1日現在

図表2 日本人と在留外国人の年齢階層別人口(2018年)



図表1～2 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

閑話ひとつ

- ▶「今シーズンの記録は25号」というと、皆さんはまず初めに何を連想しますか？ 大谷翔平選手のホームラン数ではありません。今年の1月から9月までに発生した台風の数です。今年は、記録的な高温や局地的な豪雨などの異常気象が世界各地で報告されています。
- ▶気象庁によりますと、この異常気象は、地球温暖化に伴う平均気温の上昇と水蒸気量の増加が関係しているといえます。そして、地球温暖化の原因は、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加により、大気の温室効果が強まったためと考えられています。
- ▶最近、アメリカの保護主義とそれに対抗する中国のつばぜり合いが続いていますが、地球温暖化の抑制には、二酸化炭素排出量の多い二大国の協調が必須要件となります。このまま地球温暖化が進めば、私たちの子供の代では、自然災害や熱中症などのリスクがさらに高まります。今は、近視眼的な思考ではなく、中長期的な視点に立った対応策が早急に求められます。

(KW)